是三字、雖誤所行已久、余○藤原頼長奏曰、何以知誤乎、仰曰、寛平法皇、法名空理、灌頂號金剛覺、灌頂時名之灌頂後御消息奥猶書空理、不書金剛覺、則知僧灌頂號猶男字、而古賢以爲、金剛覺是法名、不知有空理之御諱、是故天子法諱三字、又有金剛之字、雖古賢不免失誤之譏、慎之令努力云々、

〔扶桑略記二十二宇多〕仁和五年○寛平元年己酉正月、天皇談話曰、往日素懐、御記云、朕自爲兒童、不食生鮮者、歸依三寶、八九歳之間、登天台山修行爲事、爾後毎年往詣寺々修行、至十七歳、言中宮可爲沙門狀、答曰、此極善也、大原寺有練行法師、靡侈者、爲彼法師、裁縫細紵裝束并袈裟、先可以與耳之、後日又答曰、善哉善哉、好三寶事、雖然暫見盡世間、須修此事、經三四月、復如是事、未有妻子可也、若住于世間、斷煩腦是難耳、答曰、諾然敢不肯許、後四ヶ月、大臣持鳳輦、奉迎先帝、○光孝愚心偷以悚戰、未及復奏、歴四ヶ年、傳此寶位、而代□人心有兩端、可治難、周文賢哲主也、

〔帝王編年記十五朱雀〕天暦六年三月十四日、出家、御法名佛陀壽

〔百練抄四條一〕寛弘八年六月十九日、先皇○一條御出家、法名進覺、精

〔百練抄六崇德〕永治元年三月十日、太上天皇御出家、卅九、法名空覺、

〔續世繼二鳥羽の御賀〕鳥羽院、○中略かくてつぎのとし○永治元年御ぐしおろさせ給き、御とし四十にだにみたせ給はねども、としごろの御ほいも、又つゝしみのとしにて、年頃は御隨身などもとゞめさせ給て、ぐせさせ給はねども、白河のおほいのみかどゞのゝむかひに、御堂つくらせ給て、くやうせさせ給に、兵仗かへし給はらせ給て、めづらしく太上天皇の御ふるまひなり、うちつゞき八幡賀茂など御幸ありて、三月十日ぞ鳥羽殿にて御ぐしおろさせ給、すこしも御なやみもなくて、かくおもほしたつ事を、よの人なみだぐましくぞ思ひあへる、御名は空覺とぞきこえさせ給し、

〔源平盛衰記三〕一院御出家事

一院○後白河モ被思召ケルハ、○中略清盛カク心ノ儘ニ振舞コソ然ベカラ子、是モ末代ニ及ラ、王法ノ